

4. 公共交通を取り巻く問題点と課題

4-1. 問題点の整理

公共交通等の利用状況や住民・観光客等の移動実態をふまえ、本町における公共交通の問題点を以下に整理する。

(1) 高齢化の進行と自動車交通への依存

本町における 65 歳以上の高齢者割合は 25% であるが、今後も高齢者割合は増加すると予測されており、自動車を運転できない高齢者も増加すると推察される。

一方で、公共交通が十分でないことから、通勤や買物などの日常交通手段における自動車利用の割合は高く、また、来訪者のほとんどがマイカー利用者であるなど、町内外の移動は自動車に依存しており、自動車を使わない世帯や高齢者の生活利便性が低く、今後の高齢化の進行を踏まえると、問題が深刻化することが懸念される。

(2) バス利用の減少と路線の廃止

路線バスは主に通学手段として利用されているが、路線バスの利用者数は減少が続いており、一部の路線では事業採算が成り立たず、そのサービス水準が低下していることから、生活交通手段として機能していない。

(3) にこにこサービスの利用低迷

本町では、にこにこサービスにより、高齢者の通院や駅への送迎を実施しているものの、その認知度は低く、利用が低調となっており、高齢者のニーズと合っていない可能性がある。

(4) 鉄道駅へのアクセスの低さ

上総一ノ宮駅は町内外における拠点駅となっており、町民のみならず近隣市町村からの利用も多い。また、駅周辺には公共施設や医療施設が集中しており、駅利用以外の目的で訪れる住民も多い。

しかしながら、駅東西には、鉄道駅まで徒歩でアクセスするには距離のある地区が多く存在している一方、駅周辺に駐車場や駐輪場が少なく、駅へのアクセス性が低い。

(5) 買物のしにくさ

町内には商業施設が少なく、自動車を運転できない層にとっては買物場所が限定され、日常の買物に不便を感じている高齢者が多い。

(6) 通学における移動の制約と防犯上の不安

小中学生をはじめとする通学時の移動手段は徒歩や自転車ほとんどであるが、代替手段がないため、雨天時の通学手段に不便を感じることや、帰りが遅くなる場合の防犯面に不安を感じるなど、通学者やその家族に心理的な不安を与えている。

4-2. 公共交通の課題

本町における公共交通機関等の現状と住民アンケート調査等の結果をもとに、公共交通における課題を以下に示す。

(1) 自動車に依存しない高齢者の通院移動手段の確保

- ・高齢化が進んでいく中で、高齢者の生活の足を確保していく必要があり、通院する高齢者の多くが家族等による送迎に頼らざるを得ないなど、通院行動に制約を抱えていることから、何らかの対応を講じていく必要がある。
- ・町内の通院には「にこにこサービス」が利用可能であるが、利用者が限定されているなどサービス内容が通院者のニーズとの間にずれがある可能性があるため、システムについては見直しも含めて再検証が必要である。
- ・町外（特に茂原市方面）へ向かう通院需要も一定数あると考えられるため、町外医療機関への交通手段の確保についても検討が必要と考えられる。

(2) 日常の買物交通手段の確保

- ・自動車を持たない世帯や自動車が運転できない高齢者は、買い物場所がおのずと制限されている。
- ・高齢者に限らず、自家用車による買い物に不便を感じている層もあると考えられるため、茂原市方面を含めた商業施設へのニーズがあることから、「にこにこサービス」の見直しを含めて、全町民が利用可能なシステムを検討する必要があると考えられる。

(3) 安心して通学できる交通手段の充実

- ・通学児童・生徒の安全確保は、これから社会全体が少子高齢化に進んでいく中で、少子化に歯止めをかけていくためにも必要な施策であり、対策を講じる必要がある。
- ・児童の通学に利用されている路線バスについては、通学手段として今後とも継続していくことが必要であり、その他の遠距離通学地区についても、何らかの対応を考えていく必要がある。

(4) 鉄道駅と海岸沿いとの連携強化

- ・県道飯岡一宮線沿いに居住地や観光地、宿泊施設などが集積しているものの、自動車以外の手段による駅への移動がしにくい交通体系となっていることから、これらの居住者や観光客の移動手段として公共交通の利便性を高め、駅周辺地区と海岸地区の連携を強化していくことが課題である。